

いふ

羽澤記云し書曰獲我子兼勅賜宣命
於能除大師勅使參拂理巨當此大梵寺の
彼云云一能除大師に詣て官符と授
る云々雅集は參拂理を能除と一羽澤記
は參拂理を勅使と云云泥の違なり又
玉記小 推古天皇の勅して泰澄は謚一
能除大師といふとあり又云雅集は云ふ
崇峻の皇子皇子を能除方子といふ
とあり玉記をみるに皇子の皇子と泰澄は
曰人よりいふ説に異にても此を去る
まといふ玉記一跡して後日考ふの便と
あるに參拂理弘海ともに皇子の皇子の
事とて能除一切苦の文を平生誦ある
故に附信能除仙とも能除方子とも云々
もや勅使を下して能除大師と宣命を賜
といふ事玉記に見ゆ（是も泰澄は稱一なる
もや

一 種種堂

高八尺口の徑り又八寸五寸の徑あり